

バリアフリーニュース (第7号)

ワンポイントLESSON《障害を理解しよう!》

遠藤邦弘 さん(宮城リーダー)

みなさん街中でこんな事に遭遇しませんか。

- ①ていねい過ぎる手洗い。何度も何度も手を洗う。
- ②トイレでズボンを下げておしっこする。
- ③意味不明な「独り言」を言っている。
- ④洗剤を何度も何度も付けて手を洗っている。
- ⑤ドアノブに手を触れないように手をかざして出てくる。
- ⑥人とすれ違う時に、こわがり身を壁際によけてしまう。

「どうしたんだろう!この人」と感じると思います。

中には、親切心から「変な人がいます」と警察に通報する人までいます。当事者の障害者は、職務質問を受け、警察に連行され、親が呼び出されるといったところまでに発展してしまいます。これでいいのでしょうか。バリアフリーリーダーとして、地域の皆さんに申し上げたい。障害をもっともっと理解してください。障害者には、一人ひとり違う個性や特性があります。皆さんと同じなんです。「障害」自体を理解してください。

障害に立ち向かい地域社会で生活しようと懸命に努力しています。バス・地下鉄・電車・デパートなど様々な所で、地域社会の一員として頑張っている姿に「あたたかい声」を掛けてください。見守ってください。けっして怖くありません。一人ひとり「心優しい」同じ国民(市民)なのです。



写真は、仙台市東西線車内(2016.1.2撮影) ※文章と写真の関係は特にありません。

車いすでハワイに行ってみました！ 前編

伊藤清市 さん(宮城リーガー)

「はーれーたそらー♪、そーよぐかぜー♪」と聴けば往年の若大将も憧れる？常夏の楽園ハワイ。先日会社から休暇をもらい、80歳を越えた両親と姉の4人でハワイ旅行に行っていました。

手動車いすである私の障害であれば国内旅行はある程度どこにでも行けるのですが、海外になるとそうは行きません。しかも高齢の両親を連れてとなるとなおさらです。

そんなわけで、まずは旅程の計画を立てなければ行けません。

今回お世話になったのは大手旅行会社のバリアフリーハワイ旅行専門窓口。大人の事情で社名は書けませんが(笑)、ネットで検索するとハワイを案内して14年の実績ということで電話相談。担当者の方は日程やホテルのバリアフリールーム、観光地のことまで電話やメールで親身になって相談に乗ってくださいました。

そしていよいよ出発日。今回は仙台空港から成田空港まで国内線を経由してハワイまでの航路です。仙台空港で航空会社のカウンターに行けば後は会社のほうで搭乗までサポートしていただきますので安心ですが、2つほどアドバイスを。

まず一つは車いすについて。飛行機内は座席間が狭いため自分の車いすで座席に行くことができません。そのため機内用の車いすに乗り換える必要があります。航空会社のカウンターから乗換えが可能なのですが、個人的には機内用は身体にフィットしないため、搭乗口ぎりぎりまで自分の車いすで行き乗り換えました。場合によってはカウンターから機内用に乗り換えたほうが安心されるかたもいらっしゃると思いますので、自分の希望を会社へ伝えることが大切になります。

もう1点はトイレについて。仙台空港から成田空港までは約1時間。成田からハワイまでは5~6時間を機上で過ごさなければなりません。機内搭乗は優先



ワイキキビーチからのダイヤモンドヘッド

搭乗(到着時は最後に降機)ですので、実際の搭乗時間よりトイレに行ける時間が短くなります。飛行機によっては機内用車いすが丸ごと入るトイレもありますが、機内用の車いすに乗り換える必要があったり、トイレ自体が狭かったり使い勝手がよいとは言えませんので、できるだけ事前にトイレを済ませるなど、対策を立てておいたほうがよいと思います。

ということで、空港での解説が長くなってしまいましたが、いよいよ出発！成田空港ではハワイ発の時刻まで5時間の待ち時間があったのですが、出国審査、保安検査、免税店の楽しさであつという間に時間が過ぎていきました。

2月27日21時前に成田空港を離陸した飛行機は日付変更線を越えて同日朝8時前にホノルル国際空港に着陸。日本からみてハワイはマイナス19時間の時差があるので、到着しても日付が変わらないんですね。ちなみに飛行時間は約6時間半ほど。私は尿を溜めるバッグを持参したので機内のトイレは使用せずその分ゆっくり眠ることができました。そしてついに着陸。空港での入国審査を経ていよいよ空港の外へ出ると、機内とは異なり暖かで心地よい風が身体で感じられ、雲一つない青空と生い茂るヤシの木に異国の地ハワイを実感したのでした。

空港では旅行会社に手配をお願いしたスロープ車が迎えに来て下さりそのままホテルへ直行。ハイウェイ周辺はあまりハワイらしさを感じられませんでした

が、ワイキキ周辺に近づくにつれ、テレビや雑誌でよく見た「ハワイ」が現れてきました。

ということで、ハワイ着まで長々と書いてきましたが、紙面の都合上、今回はここまで。次回はハワイ滞在での様子をレポートしたいと思います！ちょっとだけ予告するとホテルの部屋はバリアフリーでしたよ^^ (写真左)



ホテルのシャワールーム

『バリアフリー観光全国フォーラム』ふくしま大会

開催されます。日程：6月24日（金）～ 25日（土）

菅野真由美 さん(福島リーダー)

東日本大震災、そして原発事故から5年という月日が経ちましたが、福島のみならず東北の観光は未だ厳しい状況に置かれています。そんな中、「ふくしまの観光をバリアフリーで再生する！」ため、日本バリアフリー観光推進機構主催の「バリアフリー観光全国フォーラム」が今年6月24日・25日、福島市にある「コラッセふくしま」にて開催されることになりました。福島市と同機構の加盟団体である、ふくしまバリアフリーツアーセンター、福島市観光コンベンション協会が共催します。また、観光庁や東北運輸局などの後援をいただく予定です。

ふくしまバリアフリーツアーセンターは、福島市を中心に観光施設や宿泊施設のバリアフリー情報の提供を行っています。全国に20ヶ所ある相談センターの一つとして日本バリアフリー観光推進機構のネットワークに参加しています。

日本バリアフリー観光推進機構では『パーソナルバリアフリー基準』というものを推奨しています。『パーソナルバリアフリー基準』とは、身体に障がいのある人や、高齢によって身体が不自由な人をはじめとするさまざまな旅行者の、好みや能力を基準にして、健常者も含む誰もが満足して楽しめる観光を実現しようという考え方です。以下に解説を同機構のホームページから引用します。

『パーソナルバリアフリー基準』とは

パーソナルバリアフリー基準とは、身体に障がいのある人や、高齢によって身体が不自由な人をはじめとする、さまざまなみなさんに旅行を楽しんでいただけるように開発した基準です。

パーソナルバリアフリー基準の基本は、

- (1)障がい者視点の調査により、観光施設などのバリアを明らかにする。
- (2)常設の相談センターにおいて、利用者からの相談を受ける。
- (3)『旅のカルテ』システムによって、利用者に満足な旅を提案する。

つまり、バリアを明らかにする調査と、相談システムによって、あらゆる人々の旅を実現しようとするもので、旅のユニバーサルデザイン化は、パーソナルバリアフリー基準によって達成されました。

■旅行者それぞれが基準だから、誰もが満足。

パーソナルバリアフリー基準は、旅行に身体的な不自由のある、さまざまな誰にも、不安なく満足度の高い旅行の提供を実現する初めてのシステムです。パーソナルバリアフリー基準では、旅行者それぞれを基準としてバリアフリーな旅行を提供するために、宿泊施設、観光施設、交通機関、食事処、UDトイレなどのバリアを全て調べ上げてデータ化しています。

■気軽に相談できるから、旅がもっと楽しくなる。

パーソナルバリアフリー基準を導入している観光地には、旅行者からの相談を受け、データ化された情報を旅行者に合わせてアレンジし、宿泊施設の選定のお手伝いすることのできる「相談センター」があります。ほとんどの相談センターでは、『旅のカルテ』システムによって、宿泊施設の予約もできます。お客さまが宿に直接予約をされたり、旅行代理店を通して予約されるよりも安心で、余分な負担はありません。

■地元の障がい者が調査しているから安心。

パーソナルバリアフリー基準による調査は、地元の障がい者やその介助者によるグループが行っており、センターで相談を受けるのも調査を行ったメンバーです。メンバーは実際に宿泊するなどしての調査や指導を行い、障がいを持つ人の不安や要求をよく理解しているので、安心して相談できます。

●『旅のカルテ』システム

お客様の安心な旅をご提案するための、障がいのタイプや程度、あるいはお客さまのご希望などを聞き取り、管理するシステムです。一度登録いただくとその後別の観光地に出かける場合にも、ご利用いただけ非常に便利です。旅のカルテはご相談を受けたセンターでのみ管理をしていますが、お客様のご要望により他の相談センターに送ることも可能です。

●パーソナルバリアフリー基準は、伊勢志摩バリアフリースターセンターが開発し、日本バリアフリー観光推進機構が全国統一の基準に育てたシステムです。

■特定非営利活動法人 日本バリアフリー観光推進機構
http://www.barifuri.jp/portal/page/personal_bf.html

バリアフリー観光は、これからの集客に欠かせないものになっています。障がいのある人や高齢者の満足は同行する健常な家族の満足につながります。それはより多くの利用者の満足と拡大を大切にすることになり、それこそが本当のユニバーサルデザインの実現になります。その実現のために障がいのある人などの当事者が専門家としてまちづくりに参加し、行政と共に観光振興、経済発展を目的に知恵をしぼることで地域のノーマライゼーション化が加速するのです、とは日本バリアフリー観光推進機構の理事長であり水族館プロデューサーである中村元氏の言葉です。

今回の全国フォーラムは、福島の被災経験を新たな“安心バリアフリー観光”、“安心なまちづくり”に活かしバリアフリー観光のさらなる推進を図る機会にしようという目的で開催されます。この機会にこれからのバリアフリー観光、東北の観光の復興をみんなで考えましょう。東北各県からの多くのご参加を心からお待ちしております。





バリアフリー 観光推進 全国フォーラム

開催期間	平成28年 6月24日 (金) ~ 25日 (土)
目的	東日本大震災・原発事故から5年が経過していくなか、福島の被災経験を新たな“安心バリアフリー観光”、“安心なまちづくり”に活かしバリアフリー観光のさらなる推進を図る機会とする。
大会名称	バリアフリー観光推進全国フォーラムふくしま大会
大会テーマ	「ふくしまの観光をバリアフリーで再生する！」(仮称)
概要	基調講演、全国バリアフリーツアーセンター先進地事例発表 トークセッション、県内UD产品展示、授産品展示・販売 全国各地のバリアフリーツアーセンターの展示
参加 予定者数	1,000名 (県内(福島市含め)800名+県外200名)
会場	コラッセふくしま



主催 主管	特定非営利活動法人 日本バリアフリー観光推進機構 バリアフリー観光推進全国フォーラムふくしま大会実行委員会
共催 (予定)	福島市 特定非営利活動法人ふくしまバリアフリーツアーセンター 一般社団法人福島市観光コンベンション協会
後援 (予定)	観光庁・東北運輸局・福島県・福島商工会議所・東日本旅客鉄道株式会社福島駅 土湯温泉観光協会・飯坂温泉観光協会・高湯温泉観光協会・岳温泉観光協会 福島民報社・福島民友新聞社・NHK福島放送局・ラジオ福島・福島テレビ・福島中央テレビ 福島放送・テレビユー福島・エフエム福島・エフエムポコ・福島学院大学 他

日本バリアフリー観光推進機構
加入団体のある都道府県

【編集後記】

バリアフリーニュース第7号を発行させていただきます。

東北もようやく春めいて参りました。

今年の桜前線は、少し早めのようなのです。

今後ともご理解、ご協力よろしく申し上げます。

(発行)

東北運輸局交通政策部消費者行政・情報課

〒983- 8537

仙台市宮城野区鉄砲町1番地 仙台第四合同庁舎

TEL:022-791-7513

FAX:022-791-7539

E-mail : tohoku-syougyouka@mlit.go.jp

※東北運輸局発行のバリアフリーニュースはホームページに掲載しております。

<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/index.html>